

# 初優勝は通過点

## 日本一を目指す「ママ」

5 オーバー、77

高橋 圭子（若宮）



まずはプランの最初の1ページをクリアした。「初出場だし、1年目は優勝のチャンスがあると思っていた。(優勝は)狙っていました。嬉しいですね」と高橋が満面に笑みを浮かべる。女子シニアは、50歳を迎える年から出場可能。高橋の誕生日は大会が開催された9月2日と同じ月の17日で、49歳でのチャンピオンとなった。1年目というのは他の選手と比べて体力的にも優位だけに、彼女の狙いもそこにあった。

インからのスタート。ショットは好調だった。ティーショットは確実にフェアウエーをキープし、アイアンも切れた。9ホール全てでパーオン。しかし、パットが決まらない。半分のホールでバーディーチャンスにつけたが、「入れたいばかりで、気持ちが入ってたん

よう。強く打って、カップの横をスーッと抜けて…。フラストレーションが溜まりました」とおどけた。それでも3パットは1度もなく、オールパーのハーフ36。折り返してアウトは6番でダブルボギーを打つなどスコアを5つ落としての41。気合が空回りした部分もあったのかもしれない。終わってみれば、2位の吉田成美（若松）とは1打差。薄氷の初栄冠となった。

北九州市小倉北区でクラブを経営する。最近は新型コロナの影響で店は閉店状態。20人以上もいる従業員のために今年6月からはクラブ近くにパン屋&カフェをオープンした。コロナはゴルフにも影響し、それまで月10回のプレーが1回に。3週間もラウンドをしないこともあったという。だが、悪いことばかりでもない。「回るのが少なくなり、ゴルフを丁寧にするようになりました」。1打1打の大事さを改めて見直す機会となったようだ。

これまで九州女子ミッドアマチュアなどで複数回の2位があるが、初めて手にした大きなタイトル。そして、九州女王として目指すは日本一だ。「何年も前から（日本女子シニアの）優勝スコアをチェックしてきました。飛距離では負けないと思うし、全国でも優勝を狙います。大会がめっちゃ楽しみです」と力を込めた。「ゴルフ用語を覚えるために」27歳からクラブを握り始めたママさんが、ドライバーの平均飛距離230ヤードを武器に名門・程ヶ谷CC（神奈川）に挑む。



糸島市辺りは魏志倭人伝にも登場する古代の「伊都国」があったとされ、伊都GC内にも④の写真のように太古をイメージさせる名称が随処に見られる

